

(1) 1995.1-1995.9 地震発生から将来検討委員会発足 (主に理事会)

理事会(1994

東大震研

年度第4回) 1995.2.22 平田・川勝

など6

深尾会長•

・兵庫県南部地震についての学会対応

- ・小中学生を対象としたビデオ作成
- ・「地震 IJPEに特集号
- 学会員の意識調査(アンケート)

1995年3月15日 選挙管理委員会発表 (NL95.3.15)

- •会長 石田瑞穂、監査 大竹政和。
- ・評議員:安藤雅孝(55)など25名(工藤、纐纈、飯田、岩田など)次点(武村)

NL95.3.15の記事

- •1995年兵庫県南部地震-阪神地域被害調査(速報)鹿島•武村雅之
- ・平成7年兵庫県南部地震緊急近く活動調査 東大震研・平田直
- ・hyogoにおける情報流通について 東大震研・鷹野澄
- •地震概況(1994.12-1995. 1)気象庁
- 和達先生の追悼文(1995.1.5ご逝去) 廣野早蔵
- ・新入会員名簿 福和・関ロ・西山など新加入

1995年1月17日兵庫県南部地震発生(起点)





- (1) 1995.1-1995.9 地震発生から将来検討委員会発足 (主に理事会)
- (2) 1995.9-1996.5 将来検討委員会発足から強震動委員会発足
- (3) 1996.5-1997.3 強震動委員会発足から強震動基礎講座まで

(主に強震動委員会)

(付記) 2000年12月1日学会法人化までの経緯

深尾•山 理事会 下•久家• (1995年 末広・川 度第1回) 勝・藤井な ど17(オブ 日大文理

石田会長· 渡航·谷本俊郎、欧文誌·川勝均、地方連絡委員 - 兵庫県南部地震対応

- ・「地震」JPE特集号:「地震」はやめて、JPEで
- ・啓蒙ビデオ作成:企画委員会で検討、1996.1.17の完成を目指す

·役員選出:副会長·山下輝夫、庶務·山野誠、会計·飯田昌弘、「地 震」・本田了、情報誌・西澤あずさ、大会・宮武隆、企画・久家慶子、海外

- 予知・防災についてのアンケート: 新理事会で検討
- ・震災調査報告書:土木学会、建築学会などから合同報告書への 参加の打診があった。大きな労力を伴うので慎重に対処する
- 石川・大中 ・北淡町の断層保存:未定なら学会として保存要望書を出す
 - ・学会賞の制度を継続審議

1995.3.28 総会 日大文理

ザーバー

大内徹(神戸大学)から提案:1996年1月17日に地震学、地震工学の国際シンポを 開催したい。シンポ実施の方向で理事会で検討

日本地震学会会長の挨拶(1995.4.17) (NL95.5.10)

- ・深尾前会長から理事会にまかせておけば、何もすることはないからと・・・
- •学会目的参照
- ・地震および地球内部の研究
- ・関連の知識の交換・普及
- ・地震災害の軽減・防止
- ・その他必要な事業
- ・地震後、地震学に良くも悪しくも関心が 高まっている。学会として何ができるか何 をなすべきかを真剣に考える

日本地震学会会長の挨拶 加工科学技术研究系 石田 福 糖 地震学会会長の就任に際し何か技術のいたことを至急者くべしという命令が ユースレラー編集員からきました。そこで、あわてて前は、前や回てはどんな ことが書かれているのか見てみました。もちろん、前や回に名古祖大学の原紀良 大養校で、前回は地震研究所所長になられた原紀良大教校です。他様々の調子は かなり軽く受け返すという雰囲気ですが、さずがに中様は本質をついていて、地 の理解系統と比較されるから気の造だれと無度研究をのある教授から切れれまし の関連の機と比較のものから、以の様になる。現場が表示のある情報から、されました。 技術、技術の容素を見まして、これら仕方ないかと思ってます。 まで、実施の学金技が見しいということでしょうか、今回は地震学会への展現れからの取材が特に多かったと思います。この取材のなかで、地震学会会技の主な仕事は何ですかと関かれまして、次ので学会の役割 ままだよと言われて引き継いだのですが、あわてて1993年4月1日発効の日本地質学会会別をみました それによりますと、地震学会の目的は地震及び地域内部に関連する研究、それらに関する知識の交換・目及 ならびに地震実著の制解・助止に貢献することとなっています。 続いてこの目的を達成するための事業とし て現体的な4事業項目と、"その他必要な事実"という項目かあるのです。新聞状等の今日の本当の取材目的 は、あそらく、地質学会の目的の後手部分と"その他必要な事業"というところにあったのではないかと用 **瀬されます。八年前州北地湾のあと、地湾学に対して日くも思しくも同心は高まっています。地湾学における研究成業を少しても地湾災害軽減のために役立てるには、地湾学会として刊かてきるか何をすべきかを介** まで以上に直刺に考えていくことが必要だと思います。 組織化、地震学会の目的知の前半部分について少し述べるせてもらいます。今や地球を属生から現在まで地 表めらゆんまで、その全部を挟一的・組織的に関係しようとする場々なブロジェテトがステートしつつあり ます。もちろんこうした研究は従来からあったのですが、そのために生命科学まで包含したプロジェクトや、 大々的に関係へ観測機を近げるようなプロジェクトは、少なかったと思います。地球全体を理解するために は、種々な科学の共同言語による理解が必要です。しかし、ここで私はつぶやきたいのですが、こうした研 変をサードしていくのはやはり地震学における幅広い報酬と研究ではないかと。 とにかく、これから2年間宜しくお願い致します。

合同大会 5月27日-30日(日大文理:萩原幸男) 28日招待講演会「緊急フォーラム兵庫県南部地震」+ポスター(結果86件) 30日地震災害・強震動(C会場)太田(裕)・武村、末次・植竹

・「地震」: 特集「兵庫県南部地震のテクトニックな 背景」、原稿募集 •9/30「東海地震一予知と防災」開催予定 (秋季大会で) 石田会長、 ・ビデオ作成: NHKエンタープライズの協力を得て 理事会 山下、久 1995.8.2 家、飯田な 進める。作成費は最低1000万円。相応しいスポ (1995年 ンサーを求める 度第2回) ど8(オブ ・社会に対する対応についての反省:「将来検討委員会 東大震研 ザーバー (仮称)」を設置。委員の人選を早急に。 深尾) ・評議員ネット:ネットでの議論は避ける。意見収集にとどめ る。次回評議員会で議論

理事会 (1995年 度第3回) 静大教養 部	1995.9.27	山下、久 家、飯田な	·将来検討委員会委員決定 山下、飯田、岩崎、入倉、川勝、菊地、
-------------------------------------	-----------	---------------	------------------------------------

NL95.7.10の記事

阪神・淡路大震災報告書編集員会について

東大地震研・工藤一嘉

- ・地震学会としての編集員会発足:メンバーは入倉、安藤、伊藤、纐纈、工藤
- 関連学会調整会議(4/14、5/10)にオブザーバーとして参加
- ・他学会との調整のため編集委員会発足。編集員会への参加、意見を求む

理事会の 報告	1995.7.10 (NL95.7.10)	理事会	課題山積により電子メールによる理事会審議の開始 ・大震災調査報告書作成に関して編集委員会設置 (工藤の提案)を承認 ・「Memorial Conferennce in Kobe」(他学会共同)へ参加することでシンポの開催に替える(安藤の提案)ということを承認
------------	--------------------------	-----	---

(2) 1995.9-1996.5 将来検討委員会発足から強震動委員会発足

1995.9.28 将来検討委員会(1995年度第1回)静大教養部

山下、安藤、石橋、入倉、川勝、菊地、飯田、平田、藤井、本蔵、武村、石田(会長)、(オブザーバー金沢、川崎、ゲラー、西澤)

- ・8.2の理事会、9.28の評議員会の承認で発足
- ・委員長に山下輝夫(副会長)を選任
- ・自由討議:教育・普及活動で一致。 社会に対する責任の軽視、兵庫県南部地震対応が後手に回ったことを反省。 今後の活動を検討

1995.11.15 将来検討委員会(1995年度第2回)東大震研

山下委員長、石橋、入倉、川勝、菊地、飯田、平田、島村、武村、石田(会長)、(オブザーバー: 岡井、桑原、佐藤(淳)、館林)

*桑原(当時、上野高校)と館林(読売新聞)が第2回から引き続きオブザーバーとして参加

将来検討委員会 (1995年度第3回) 東大震研	1995.12.18	山下委員長、石橋、 飯田、島村、武村、 本蔵、石田(会長)、 (オブザーバー:桑 原、館林、泊)	・地震学会の内部機構の整備 ・次回までにワーキンググループ(委員会)設置の 具体案 合意点:テーマ明確。委員は公募性にすべき。社会 貢献である。研究発表やシンポとは目的が異なる。 依頼に対しアドバイスをしたり相談窓口になっては。 学会提言を視野。他の地震関連組織に配慮 対立点:科学的事業に口出す組織、マスコミに対応 する組織⇔個人を統制する権力組織になるな
--------------------------------	------------	--	---

NL96.1.10より将来検討委員会の特設ページ開始

将来検討委員会議事録

日本地震学会・将来検討委員会議事録(1995年度第2回)

日 時: 1995年11月15日(水) 17:00~20:00

場 所: 東京大学地震研究所 第3会議室

出席者: 飯田昌弘, 石田瑞穂, 入倉孝次郎, 川勝 均, 菊地正幸, 島村英紀, 武村雅之, 平田 直, 山 下輝夫 (以上委員), 岡井 敏, 桑原央治, 佐藤 淳司, 館林牧子 (以上オブザーバー).

審議事項

地震学会と社会の関わりについて, 一般論見地から活発 に議論がなされた。議論の内容は多岐にわたったが、主な 事項を以下の3点に集約して示す。それぞれの項目の具体 的内容については、次回以降に議論する。

- (1) 地震学会の内部機構を整備する必要がある。
 - ――現在の学会は存在感が希薄であり、他方、学会 員は多様化している
- A. バランスのとれた学会の活動方針を打ち出すべき ではないか。
- B. そのための議論の場を必要に応じて提供すること や、諸活動のバックアップ体制の整備が必要では
- (2) 組織としての地震学会の責任を考えるべきである。

- 他学会との協調や、実社会への貢献をするため には何をすべきか

- A. 関連分野の人々に役立つ。報告書の作成や啓蒙活 動が必要である。特に防災には必要ではないか。
- B. 被害地震時の調査団派遣、説明会開催、報告書作 成を実施してはどうか。
- C. 地震予知研究について学会で議論を活発に行い、 地震予知計画に反映させる努力をするべきではな
- (3) 教育・普及活動を実施すべきだ、
- ---地震学会でしかできないことがある。
- A. 一般人・子供向けなど、さまざまなレベルの出版
- B. 図表資料の出版は大切である.
- C. シンポジウムや講演会をもっと開催する必要があ 3.
- D. 貴重なデータや資料の保存を考えるべきだ。歴史 地震, 活断層, 地震計などがこれに当たる.
- E. 教育機関・報道機関などヘアピールするべきこと はしていこう

将来検討委員会の日程

- 第3回 1995年12月18日(月)17:00~20:00 東京大学地震研究所 (第3会議室)
- 第4回 1996年1月23日(火)17:00~20:00 東京大学地震研究所 (第3会議室)

以上3点のほかに(4)「研究者間の議論を活発 化させる場をつくる」を追加(第4回委員会で)

将来検討委員会 (1995年度第5回) 1996.2.26 東大震研

川勝、島村、武村、

平田、本蔵、石田 (会長), (オブザー バー:桑原、館林、 ゲラー、泊)

山下、飯田、入倉、

·社会貢献目的: 広報委員会(平田担当)

- ·社会貢献目的:学校教育に関する委員会(桑原担当)
- ・出版活動について議論
- 出版ができる受け皿をつくる
- ・シンポジウムの論文のような中途半端はやめる。
- 売ることを事業化するかどうか検討する
- ・社会貢献目的と研究活動推進目的の4委員会以外を公募

今回、(A) 社会的貢献を目的とするものとして、以下の2 つの委員会の設置を提案することになった.

(A-2) 広報委員会(仮称)

——相当: 平田 直

地震学会の社会・マスコミへの広報の窓口とな り、地震学会を理解してもらうことや、地震学会 の意図を伝えることを目的とする。委員会を支え るバックグラウンドが必要である、という意見が あった.

(A-3) 学校教育に関する委員会(仮称)

——相当: 桑原央治

学会内の高校・中学の先生を対象とし、そうした 方々が交流をもつ機会を提供する. 実状の把握か ら始めようということになった。

将来検討委員会 東大震研

山下、安藤、石橋、飯田、島 村、武村、平田、本蔵、石田 (1995年度第4回) 1996.1.23 (会長)、(オブザーバー:桑 原、館林、ゲラー、佐藤 (淳))

- ・第2回(95.11.15)の3点(内部、青仟、教育・普及)の他に、 「研究者間の議論を活発化させる場をつくる」を追加
- ・地震学会の内部機構の整備
- ・委員会は社会貢献を目的とするものと研究活動推進を目的と するものに大別
 - ・将来検討委員会は委員会活動が軌道に乗るまで、傘下で支援
- ·社会貢献目的:強震動委員会(武村、入倉担当) ·研究活動推進目的:大会プログラム委員会(平田担当)

*第4回で強震動委員会と大会プログラム委員会(のち大会企画委員会)の名前が議事 録に出てくる。この時に「仮称「強震動委員会」の必要性について」という資料を委員 会に提出(武村、飯田、入倉)

(A) 社会的貢献を目的とするものとして,

(A-1) 強震動委員会(仮称)

——担当: 武村雅之, 入倉孝次郎

地震学の成果や地震学者の意見を実際の設計用入 力地震動評価等に反映させるべく, 異なる分野の 研究者間の意見交換を推進する. 関連他学会との 共同作業に際しての、地震学会における窓口およ び実作業を担当する、工学及び民間からの設置の 要望が強いという背景がある.

(B) 研究活動推進を目的とするものとして,

(B-1) 大会プログラム委員会(仮称)

——相当: 平田 直

各分野の責任者から構成され、学会における研究 活動活性化支援を目的とする。各セッションのま とめを出したり、シンポジウム開催などの責任母 体となる. 研究発表を統制することになってはい けない、企画の実施までに十分な準備期間が必要 だという意見があった。

将来検討委員会 (1995年度6回) 大阪大学豊中	1996.3.25	山下、安藤、飯田、 石橋、平田、石田 (会長)	- 学会の法人化について議論(法人の概要説明も含む) ・法人化の方向で検討を進める(現実:ビデオの著作権が持てない) ・現在の同好会的な方がよいという意見もある ・よりよい財政基盤を変(ことが目的 ・社団法人化には規約を民法に基づく定款に直すなどの作業が必要 ・メリット:社会貢献の実施、出版や行事の実施、地震資料の保存、寄附金・補助金の獲得、公的機関との契約 ・今後の調査項目 ・法人化への具体的項目とデメリットや困難な点の把握 ・関連学会の法人化の現状調査 ・主務官庁はどこがふさわしいか?
将来検討委員会 (1995年度7回) 大阪大学豊中	1996.3.29	山下、武尾、安藤、 飯田、入倉、川勝、 菊地、島村、石田 (会長)、(オブザー バー:桑原、ゲ ラー、泊)	- 4委員会(強震動、広報、学校教育、大会プログラム)が3/26理事会、3/27評 贈員会、3/28総会で承認を得た(報告) ・武馬氏に副委員長依頼(委員追加) ・委員会の状況報告 - 強震動委員会:準備会を開催、設立準備会代表、幹事を選出、方針につい て活合う - 広報委員会:立ち上げが難しい。情報発信に重点、問い合わせにどう対応、試験期間をおくべきなど議論 - 学校教育:昨日3/28に発足、本日3/29に会合予定、地学離れなど議論 ・大会プログラム:企商委員会と役割分田本和略すべき
将来検討委員会 (1996年度1回) 東大震研	1996.4.22	山下、武尾、飯田、 川勝、島村、武村、 平田、石田(会 長)、(オブザー パー:桑原、ゲラー)	- 4委員会報告 - 強震動委員会:ニュースレターに配事投稿、5月末に第1回の会合(予定) - 流報委員会:今後具体化していく - 学校教育委員会:関係会員(100人間)を把握し総合の交流を持ちたい - 大会プログラム委員会: 準備会を1度もつた。既存の「大会委員会」 「企画委員会」に「広参員会」によるプログラム編成の分担を明確にしたい。 - 地震学会法人化への議論 - 基本財産:1997年度からの会費改訂が承認済み。1996年度は賛助会員に会費増額をお願いする。 - 事務所:原則独立事務所(現状は東大内) - 経理処理:大変、公認会計士が必要 - 法人化のソリット・デメリット - 主務官庁は多くは文部省 - 土木、気象、建築、天文、物理の各学会はすでに法人化。地質学会は現在進行中 - 会員に法人化の別リット・デメリットの明確化、学会の基本財産把握と事務所の賃貸費用や法人化時にお手続き費用を調査、主務官庁の許可基準を調査

この間の他の動き(会費値上げとビデオ)

- 会計委員会(飯田)予算案:96年度予算に企画費、委員会活動費、学会設備費の項目を追加・企画委員会(久東)ビデオは4月末に小中学向け2000本完成、5月中に一般向け、学校への配布は文部省に協力を受ける(後日談:全国の小中学校に配布、東京都からは断られた。)・(後日談:全国の小中学校に配布、東京都からは断られた。)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	事会(1995 度第5回) 1 大震研	996.1.9	石田会 長、山 下、飯田 など9	・企画委員会(久家)ビデオの最終シナリオほぼ完成。ビデオに加え配布用コピーを2000本作成。小中学用については教育委員会を通すこなど検討中。希望者には李会負担でコピーし実費販売する。・学会費改定:会費値上代案提出、値上げの必要性、学の根拠、会員サービス向上など・合同欧文誌の財政支援: JPEとJGGの合同誌に年間200万円の援助了承(JPEと同額)	Weather American 日本総合で介エューストラー は、Tip Tip Tip Tip Tip Tip Tip Tip Tip Tip
会 要値上げ 1996.5.10 石田会長 (2.26理事会、3.27評議員会、3.28総会で承認) - 理由:企画委員会の費用、学会事務所の股備充実、将来検討委員会で提案される新しい委員会の万部豊強出 - ビデオ完成(送料込み1000-2000円)	度第1回) 1	996.3.26	長、山 下、久 家、飯田	学会設備費の項目を追加 ・企画委員会(久家)ビデオは4月末に小中学向け2000本完成、5月中に一般向け、学校への配布は文部省に協力を受ける (後日談:全国の小中学校に配布、東京都からは断られた。) ・将来検討委員会(山下) ・4委員会の責任者:強震動(武村)、広報委員会(平田)、学校教育(桑原)、大会プログラム(平田)	
日本地震学 ・ビデオ完成(送料込み1000-2000円)	費値上げ 1	996.5.10	石田会長	(2.26理事会、3.27評議員会、3.28総会で承認) ・理由:企画委員会の費用、学会事務所の設備充実、将来検討	
会企画製作 1996.7.10 全画委員 ・	企画製作	996.7.10	企画委員 会	・ビデオ完成(送料込み1000-2000円) ・内容紹介(中学理科用、一般用、一般(英語)) ・キャラクター(京大防災研の片尾さん作成)	Tag.

(NL96.5.10)

仮称「強震動委員会」について

京大助災税 人会孝次郎 我為小規則 武 村 雅 之 東大地震研 飯 田 昌 弘

検討委員会で、日本地震学会の社会的資献を目指す 地域における地震に扱い折づくりを進める上で、今 活動の一つとして設置をサすめてゆくことになり、 被予想される人地震に対してどのような建築動が発 3月27日の評議員会、28日の総会で、設置が正式 生するかは極めて重要な課題との認識が探まりつつ に認められました。その間、2月27日に強闘動に関 あり、強闘動于派は単なる学術的意義に留まらず。 する研究者を中心に関連の情報にお集まり謂き、設 社会的要請をともなっている。 立のための第1回準備会を開催し、25名の方々に 参加して派きました。その際、代表を入倉孝次郎、 幹事を武村報之、振田昌弘として、設立の學報をす すめてゆくことが合意されました。

御理解頂くために、以下に第4回の将来検討委員会 ための重要なファクターである問題過程や検維な伝 に提出いたしました設置提案費の全文を掲載すると ともに、第1回事業会の課論を終まえて、第2回簿 機会および第1回後襲動委員会を以下の日程で開 値することをお知らせいたします。前回の第1回準 個会にも増して多数の方々の御参加よろしくお願い いたします。当日は先ず第2回準備会を開催し、特 様のご意見を頂き、今後の同番員会の基本方針を検 対した上で正式に他回動委員会を発起させ、同時に 議論がなされてきたかはなはだ疑問である。なるは 第1回後置動委員会を開催したいと考えておりま ど議論の場は、最低年2回の大会があり、他学会か

第2回準備会(第1回後震動委員会)開催日時・場所 1996年5月31日(全) 15:00~17:00

於 東京大学地震研究所1F第1輪牌室(124号) 商。この件についての問い合わせ先は以下の通り 麂島小架研究室 武村標之 (Tel. 03-5561-2111) E-mail takemura@krc.kajima.co.jp

ような人被害をもたらした強闘動を観測する体制が ため、このような問題について継続的な議論をすす 日本では極めて貧困であったことである。地震後日 める上で「強震動委員会」の設立は重要な意味をも

仮称「強震動委員会」は1月23日の第4回将来 特が経過するとともに、震災復興のための施策や各

このような要請に答えるために、日本建築学会や 土木学会ではそれぞれ独自に委員会を設け「設計用 地震動の推定について」検討をすすめている。しか しながらこれらの委員会のメンバーは工学的立場の 我々、代志、幹事は総会での正式承認を受けて、 研究者が多く、検討の過程で施賞学的な最新の成集 学会員の各種にさらに広く同委員会の設置の経営を が必ずしも考慮されない場合がある。後国動程定の 播舞賞の速度構造やQ値の影響等がそれに当たる。 このため、これら他学会のメンバーからも日本地質 学会の客配を促す声が強い、強闘動予測は地震学に おける成果が合理的な形で社会に違元されるための 重要課題の一つである。 このような点から従来の日本地置学会を考えると

らもうらやましかられる位に我々の学会での議論は 活発であるが、その範囲はあくまで自然科学の領域 での個々の問題に取られている。我々が社会的に求 められていることは、先に述べたように自然料学的 な知見を総合し根実の例えば耐貫設計や防災等にど のように生かしてゆくかという点であることを忘れ THESEN.

日本地質学会に所属する強闘動研究者はもちろ ん、学会内での関連分野の研究者も、このような 我々の学会が果たすべき社会的役割をわきまえ。日 つものと考えられる、委員会の組織、関権規定、設 **展期間等の詳細は、別に準備会を設けて検討すると** して、考えられる活動の内容は以下の通りである。 ①設計用入力地質動評価に関する土木、建築、機 械等の各種の動きについての情報交換と対応に

ついての意見交換。 ②学系会議の地質工学研測、地質学研測等の代表 委員のサポート。 ⑤大地質発生料の余数観測、被害調査等について

の相互連絡と報告書作成 ③復業地震学についての一般向け解説書作成。

②テーマ別のシンボジウム関係

WCEE, IASPEI などの対象).

先に述べたように回縁の神行の委員会は既に日本 建築学会 (地盤賞動小委員会), 土木学会 (地質荷重 小委員会)等にあるが、それらの委員会は構成メン パーが工学者を中心としているために主たる対象領 域が地盤の問題に襲りがちである。このような点か 今考え物質学会としては需要過程や地下構造に関す る研究者も含めた委員会の構成を考えるのが好まし

トコタ財団1996年度研究助成の公募について トコタ財団では、「多工価値社会の創造」を基本テーマとして、研究助成を行います。特に、次の4つ

の課題に重点をおいて助成いたします。 ① 多様な文化の相互理解と共存 の 新しい社会システムの標案

② 新しい社会シアナルの課金 ※ これから発生機能を入れて必ずの可能性 ② 他民社会の特化の科学、技術 社会会なの必ずを与った。自由で創造的な研究計画の必要をお行うしております。 助政の概要 1、助政の対象 ·上記の基本テーマに関する研究で、研究助成A(個人研究対象)、研究助成B(共同研究対象)の2つ

の研究権別があります。詳しくは応募要項をご参照ください - 助成金額は合計1億7,000万円程度です。 - 助成前間は本年11月1日より1~2年間とします。

3. 助成の決定 研究助成選考委員会にて選考の上。9月末の理事会にて決定いたします。

- 研究放棄者委員会にて選挙のと、9月来の選挙会にて設定いたします。 申請手載 1、北美期間 - 元美期間は本年4月1日 (月) から5月31日 (金) (自日期回省也) までとします。 2 中間間点から込み - 中間前は日本日本、別志とも送料から切ぎ (縁起) を同せし、5月11日 (金) までに、研究拡張を完 かり込みください、(格: 230円、2 ~38:390円、4 ~38:790円・17ちも漫画料金1回) - 中国間はの上の上の

電配のサンル元 東京都高辺新術位2丁目1巻1号 〒165.64 新宿三井ビル7階転着端216号 財団供人 トロナ計団 研究助成係 TEL 03-3344-1701

(3) 1996.5-1997.3 強震動委員会発足から強震動基礎講座まで

(主に強震動委員会)

強震動委員会設立準備

仮称「強震動委員 会」について (NL96.5.10)	1996.5.10	入倉、武村、飯田	設立経過 ・1/23第4回将来検討委員会(1995年度第4回)で社会貢献目的に提案 ・2/27に第1回準備会(25名参加) 代表入倉、幹事武村・飯田として設立準備 ・3/27評議員会、3/28総会で承認 ・第2回設立準備会(第1回強震動委員会) 5月31日 15:00-17:00東大震研1F輪講室(予定) 第4回将来検討委員会提出の趣意書 仮称「強震動委員会」の必要性について
-----------------------------------	-----------	----------	---

強震動委員会設立と骨格を決める(第1回、第2回)

強震動委員会 (1996年度第 1回)東大震研	1996.5.31	入倉、武村、飯田、岩田、香川、川瀬、工藤、笹谷、関田、藤原、山中(オブザーバー:青井、植竹、大堀、北川、小林(宮)、佐藤(俊)、芝、瀬尾、瀬川、藤堂、中村(亮)、東、久田、堀家、吉田(望))	- 委員会設立: 入倉委員長選出、強震助委員会を正式名称にする - 幹事および委員、準備会幹事の武計、飯田が幹事 委員、天池、泉谷、岩田、太田(裕)、香川、川瀬、工藤、纐纈、笹谷、澤田、関田、藤原、山中 - 運営方針 - 委員会開催は原則東京で頻度は2カ月に一度 - 委員会は学会員にはオープン、議事録はニュースレターに投稿し次回を周知 - 委員には全員実質的な仕事を割り振る(旅費支給)、任期は2年 - 活動内容(未定) 各自が武村宛に意見を出す	
強震動委員会 (1996年度第2 回)東大震研	1996.7.31	入倉、武村、飯田、天池、泉谷、 岩田、香川、川瀬、工藤、澤田、 関田、山中(オブザーバー:植竹、 大堀、佐藤(俊)、末富、瀬尾、萩 尾、原田、久田)	・前回議事録確認 ・強震関連の動き:各機関の動向および現状報告 ・震源過程シンボを秋の大会で開催、強震動委員会と大会・企画委員会共催(入倉・武村がコンピーナ) ・「地震調査研究推進本部」の動向(工藤) ・「地震調査研究推進本部長期評価部会・地域別分科会の設置」(泉谷) ・活動内容:各自の意見を整理(武村)、それに基づき議論し、以下の4つの間査瓶を設置する。・関査班1(集原班長、工庫、久田) 強震動報測や強震動プロジェクトの現状把握・調査班2(山中班長、岩田、大福) 強震動の研究成果の普及・調査班3(書川班長、天池、泉谷、植竹、川瀬、澤田)強震動の研究成果の設計基準への反映・調査第3(書川班長、岩田、頼額、笹谷) 大地震緊急時の対応 ・意見:ワーキングをいきなり進らず調査班とし垣根をなくず/地方公共団体での防災計画も念頭に入れる/他学会などですでに実施している項目との重複をさける	

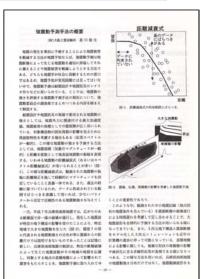
強震動委員会の活動例 NL 97.3.10

強震動地震学 基礎講座

1997.3.10 強震動委員会

・強震動地震学基礎講座連載にあたって(入倉委員長)・強震動予測手法の概要(香川委員)





広報委員会の設立

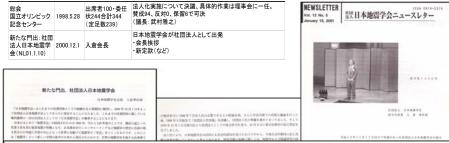
* 将来検討委員会(96.5.17)で広報委員会の担当を石橋氏に変更

NLに委員会活動のページができる

「広報委員会」発足のお知らせ	1996.11.10	広報委員会 石橋委員長、片尾、久家、桑 原、武村、林、平田	・目的:最新の学術的知見を社会に還元し、震災軽減と文化の向上に貢献する ・具体的仕事: 広報誌の発行/ホームページ開設/市民・マスメディアなどからの 情報の受け入れ/広報活動の検討・企画 (10月9日)に第1回広報委員会が開催され、それに基づくもの
なゐふるNo.0	1997.3.10	広報委員会	・広報誌の創刊にあたって ・「揺れのお話」(1)地震とお墓
第1回記者懇談会	1997.3.3	広報委員会	・気象庁で開催された記者懇談会(4か月に1回程度、懇親会は年1回程度)



学会法人化:日本地震学会変革の総仕上げ



法人化により、日本地震学会は法的にも社会的認知を受けたわけですから、今後社会的期待に応え活動の充実を図っていきたいと考えております。研究活動の振興に関しては、地震学および関連研究の国際協力の推進、地震災害軽減ため他学会との協力研究、社会活動として地震に関する最近の知見の普及のため広報・出版活動など行なうことを計画しております。

当面の日程として、2001年1月28日に鳥取県と共催で鳥取県米子市で一般公開セミナー「2000年鳥取県西部地震」、2月4日に東京都の後援を得て「21世紀の地震学」、7月には火山学会と共催で伊豆大島で「地震・火山 世界子供サマースクール」を予定しております。さらに 、強震動予測に関する講習会や解説書の出版なども検討をすすめております。生まれ変わった社団法人日本地震学会に対する会員各位からの要望をぜひ広報委員会メーリングリスト〔zisin-koho@ml.asahi-net.or.jp〕にお寄せくだされ

